

広報広聴常任委員会研修視察報告書

1. 実施日 令和4年11月7日(月)～11月8日(火)

2. 参加者 委員長 山口 将

副委員長 黒澤佳代子

委員 川田 隆志

委員 澁木 茂

委員 佐藤 久芳

委員 堀越 幸広

委員 塚田 義一

事務局 椎名 香織

3. 視察地 神奈川県葉山町

神奈川県藤沢市

神奈川県小田原市

4. 交通機関 貸切バス

5. 視察結果 別紙のとおり

◎視察地：神奈川県葉山町

◎視察内容：広報広聴について

【町の概要】

面積：17.04 k m²

人口：32,697 人（令和 4 年 9 月 1 日現在）

葉山町は三浦半島の西北部に位置し、北は逗子市、東部、南部は横須賀市に接し、西は相模湾に面しています。面積は 17.04 k m²で東西にやや長く、西半分は、市街化が進んでいます。町には、森戸川、下山川がともに西にながれ、相模湾に注いでおり、山々は相模湾を還流する黒潮と年間 1,000 ミリを越す降水により、美しい山ひだと美林におおわれています。

葉山海岸は、森戸海岸、芝崎、一色海岸、小磯、長者ヶ崎海岸という砂丘と岩礁が交互に連なっている南北 4 km におよぶ美しい海岸線で、平成 8 年には「日本の渚・百選」に選ばれています。

森戸、一色、長者ヶ崎の 3 つの海水浴場や葉山港などの港湾も整備されていて、海水浴や磯遊び、ヨットやボート、ウィンドサーフィンなどのマリンスポーツができる場所として広く親しまれています。明治初期には、日本人が最初に作ったヨットで楽しんだといわれており、日本ヨット発祥地としても知られています。

明治 22 年の町村制度実施によって木古庭、上山口、下山口、一色、堀内、長柄の 6 か村が合併して葉山町となり、大正 14 年に町制を施行しました。明治中期に御用邸が建設されてからは、「保養の町」として歩み、多くの名士の別荘や別宅が設けられました。

【背景】

葉山町議会では読みたくなる広報の作り方について、令和 4 年全国広報コンクールで総務大臣賞を受賞し、全国で認められた葉山町政策課の広報担当マニュアルや次のことを基本に議会だよりを作成しています。

○広報とは・誰かに向けて・何かを知らせて・行動してもらうこと

・必ず「相手がいる」「伝えたいことがある」「伝えて終わりではなく、行動につなげる」こと

- 広報葉山とは・誰か（町民）に向けて・何か（町の事業・制度）を知らせて・行動（参加・協力）してもらうこと
- 議会だよりとは・議会は町民の皆さんの日常生活に密着した福祉・教育・産業など様々な町が行う事業に町民の意見を反映させ、町民生活の安定と向上を図っていくことをするもの
 - ・誰か（町民）に向けて・何か（議会活動）を知らせて・行動（議会へ興味関心・参画）してもらうこと
- 広報とは：伝える広報<伝わる広報でなければならない
- 広報葉山のターゲット
 - ・広報葉山の対象は葉山町民すべて
 - ・ただし葉山町の高齢化率 31%超を考慮し、読みやすい紙面を意識する（フォントのサイズや種類、色の使い方、文字組みなどできる限りユニバーサルデザインとする）
 - ・特集面に関してはテーマにより、ターゲットを設定する。（メインターゲットを絞ることにより、より深みのある紙面にすることができるため）
- 広報葉山の表紙写真
 - ・広報葉山を手にとってもらうために、最も重要なページ。

葉山町では 24～25 年前より NPO の協力を得て広報葉山とともに議会だよりの音訳版の作成を開始し、目の不自由な方を対象に音声版の広報を発行しています。当初の経緯については記録として残っていないようでしたが、音訳版の詳細（企画・システム）、作成方法について音訳版原稿の作成方法や障がい者の協力の有無についてなど、この先進的な取り組みを学び、参考とするため調査をします。

【まとめ】

音訳版を取り入れた経緯については不明とのことでした。

規格やシステムの詳細では NPO（音訳の会葉山やまばと）にすべて依頼し、音訳作業については「マイスタジオ PC」というソフトを活用して音声 CD に吹き込み、必要な枚数を提供するといった作業になっています。音訳版を CD 化したことで紙媒体と同様の情報が障がいをお持ちの方たちへも伝えられるようになり、また興味のある一般の方が聴くことのできるよう図書館や児童館等公

共施設への配布もされており丁寧な対応が伺えました。

担当としての評価では、より多くの方に議会だよりの内容を知っていただく手段として、音訳版の希望者が数人であっても人数に限らず必要な取り組みであると考えています。

大泉町議会だよりででは、障がいをお持ちの方に対して点字や音訳などの発行はされていないので、その必要性について調査し、視覚障がい者の人数やニーズを収集してみるのも良いかと思いますが、大泉町は YouTube で動画配信を始めたことで動画を利用すれば課題の解決につながると考えています。したがって、視覚に障がいをお持ちの方に対する議会だよりの配信は可能ですが、動画作成にあたっては視覚や聴覚障がいに配慮した動画を作成していくべきと考えます。

◎視察地：神奈川県藤沢市

◎視察内容：議会報告会について（カフェトークふじさわについて、Online
カフェトークふじさわについて）

【市の概要】

面積：69.56 k m²

人口：443,272 人（令和4年9月1日現在）

藤沢市は東京から約 50 km、神奈川県の中南部に位置し、周囲は 6 市 1 町（横浜市、鎌倉市、茅ヶ崎市、大和市、綾瀬市、海老名市、寒川町）に囲まれ南は相模湾に面し、おおむね平坦な地形をしています。

「藤沢」の地名の起源については、諸説ありますが、ア.藤（ふじ）の多い水辺の地、イ.藤沢次郎清親（鎌倉時代）の居住地、ウ.淵（ふち）や沢の多い土地などが代表的なものです。中でも淵沢（ふちさわ）が藤沢（ふじさわ）に転化したとする説ウ.が妥当と考えられています。

【背景】

藤沢市議会では、平成 25 年に施行された「藤沢市議会基本条例」の理念である「開かれた議会」、「市民に親しまれる身近な議会」に向け取り組みを進めています。この条例に基づき、議会報告会や意見交換会を重ね、平成 27～28 年度は新たな取り組みとして「第 1 回カフェトークふじさわ」を開催しました。令和元年までに 5 回の「カフェトークふじさわ」が開催され令和 2～3 年には「Online カフェトークふじさわ」が開催されました。

この取り組みは、集約結果と提言をまとめ市長に提出しています。今後の課題、方向制も明確となっています。

この先進的な取り組みを学び、参考とするため調査を行います。

【まとめ】

藤沢市議会では議会報告会や意見交換会の開催を重ねてきましたが、参加者の固定化や特定の方の発言が集中してしまうなどの問題がありました。そこで専門家（大学教授：ワールドカフェトーク主催）の協力を得て「カフェトークふじさわ」を開始したことにより、若い人の参加により活発な意見交換が出来、幅

広く市民の意見が聞けるようになりました。

カフェトーク形式での議員との意見交換ではブレインストーミング方式（※アイデアを出し合い、互いの反応等を活用する方法）を進めたことにより、さらに活発的な意見交換が行われている印象を受けました。

広報広聴委員会では新たな形式の開催方法を検討し、Web 会議システムを活用しての「Online カフェトークふじさわ」もスタートさせました。

担当としての課題認識は、開催手法、テーマ設定、会場設定やまとめた提言を提出した後の検証などが挙げられています。

大泉町においても議会報告会は開催されていますが、同じような課題を持っているため、藤沢市議会の取り組みを参考にし、多様な住民と意見交換が出来るようにオンラインを含めた仕組みづくりの検討が必要と考えます。

◎視察地：神奈川県小田原市

◎視察内容：広報広聴について、議会報告会等について

【市の概要】

面積：113.6 k m²

人口：187,451 人（令和 4 年 9 月 1 日現在）

小田原市は神奈川県の南西部に位置しています。湘南地方の西部を占めているので「西湘地域」と呼ばれています。

西部は箱根連山につながる山地、東部は曾我丘陵と呼ばれる丘陵地帯で、市の中央には酒匂川が南北に流れて足軽平野を形成し、南部は相模湾に面しています。一年を通して気温は温暖で、夏は東京より涼しく、冬は東京より暖かいので、雪が降ることはめったにありません。黒潮の影響を受けた温暖な気候と適度な雨量が、生活の快適さだけでなく、梅やみかんをはじめとした多くの農産物の成長を支えています。

小田原は戦国時代に後北条氏の「城下町」として発展し、江戸時代には東海道屈指の「宿場町」として栄え、明治期には政財界人や文化人たちの「別荘、居住地」として愛されてきた神奈川県西地域の中心都市です。緑豊かな山、清らかな川、雄大な海、肥沃な平野、そして温暖な気候。多くの先人によって築かれた長い歴史と伝統・文化。今も、より良いまちづくりのため様々な取り組みが進められています。

【背景】

小田原市議会では平成 25 年に議会基本条例を制定し、その中で「広報広聴の充実」を重点課題として位置づけました。

市民の意見を議会の審議や政策立案に生かすため議員が直接出向き、議会としての考え方や活動を報告するため、平成 25 年度から「議会報告会」を開催し、平成 26 年度は議会報告会と同時開催で「意見交換会」を開催しました。

開催場所やテーマによって、市民の参加の増減等もあり、また意見要望等への対応では、執行部に関する質問などの対応に苦慮したようでした。

コロナ禍以降は「報告会」としての開催実績はありませんが小学生を対象とした「議場見学会」を「議会報告会の一つの形」として位置づけ開催しています。

この先進的な取り組みを学び、参考とするため調査を行います。

【まとめ】

小田原市議会では未来への種まきとして小学生などを対象に議場見学を行い、市議会の制度などを説明し、学習成果の発表なども行っていました。

また、市議会だより発行の間隔において周知すべきことは、メールマガジンでの発信が行われていましたが、登録者数が人口の1%にも満たない状況であり、ICT化に追いつかない部分もあるのかとも感じられました。

メールマガジンへの返信は受け付けておらず、市長や執行部、議会への「お問い合わせフォーム」を設け市民からの声を返信していました。

大泉町の議場では、本会議以外、定例で実施されるイベントは何もなく、稼働率の低いスペースとなっています。現在は新庁舎建設特別委員会において、議論が始まり多目的な議場として検討を進めていますが、広報広聴の視点からも議場の在り方を検討し、住民の声が聴くことが出来、住民に見える議会となるよう取り組みの加速が必要であります。

また、地元小中学生と議会との交流は非常に重要で、この時期より政治に興味を持つきっかけとなり、町の将来を託す子どもたちに良い経験となり得ます。このような活動は素晴らしい事業であるとともに、参考にできる点多々あることから、本町議会へも積極的に取り入れていくべきと考えます。